

**子どもの生活に関する実態調査
中間報告**

**平成 30 年 11 月
埼玉県川越市**

目次

調査の概要	1
1 調査の目的・対象者・方法等	1
2 回収状況	1
3 集計結果の表示方法	2
4 回答者の基本属性	3
5 「生活困難層」の定義について	6
アンケートの主な結果	8
1 生活困窮の状況	8
2 子どもの学び	10
3 子どもの日常生活	12
4 子どもの健康と自己肯定感	14
5 保護者の状況	15
6 制度・サービスの利用	17
アンケートの主な集計結果	19
1 生活困窮の状況	19
2 子どもの状況	24
3 支援の可能性	30

調査の概要

1 調査の目的・対象者・方法等

(1) 調査の目的

本調査は、すべての子どもが生まれ育った環境に左右されず夢と希望を持って成長していけるよう、日常生活や社会生活の自立と安定を目指した支援方針の検討にあたって、子どもの生活状況や子どもとの関わり、家庭の状況などをうかがい、今後の子ども子育てに関する支援施策の充実や改善につなげる基礎資料とするため、実施したものである。

(2) 調査対象者・抽出方法

市内在住で公立小学校に通う小学5年生、公立中学校に通う中学2年生、16～17歳（高校2年生及び高校に在籍していない同年齢の子どもを含む）の子ども本人とその保護者。

	調査対象者	抽出方法
小学5年生の家庭	2,221 世帯	地区社会福祉協議会区分から地区ごとに学校単位で抽出
中学2年生の家庭	2,066 世帯	
16-17歳の家庭	1,999 世帯	住民基本台帳により無作為に抽出

(3) 調査方法

	調査方法
小学5年生の家庭	学校を通じ配付・回収
中学2年生の家庭	
16-17歳の家庭	郵送による配付・回収

(4) 調査時期

平成30年7月6日～7月27日

2 回収状況

(1) 有効回答数（回答率）

		子ども票	保護者票	親子マッチングできた票数
小学5年生	有効回答数	2,010 票	2,015 票	2,000 票
	回答率	90.5%	90.7%	90.0%
中学2年生	有効回答数	1,914 票	1,919 票	1,905 票
	回答率	92.6%	92.9%	92.2%
16-17歳	有効回答数	675 票	687 票	673 票
	回答率	33.8%	34.4%	33.7%

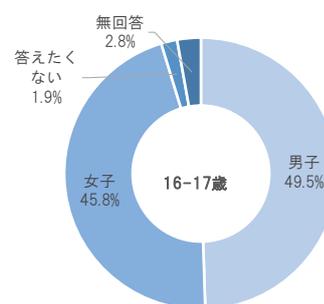
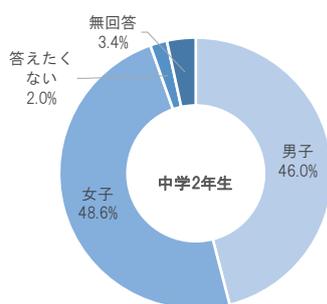
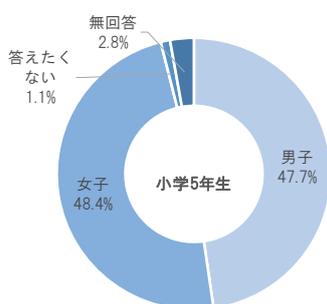
3 集計結果の表示方法

- 本報告書では、子ども票、保護者票の設問をテーマごとに分類し、集計結果を掲載している。
- 小学5年生及び中学2年生の調査対象者は地区社会福祉協議会区分から地区ごとに学校単位で抽出しているため、地区間での抽出率が異なっている。本報告書の「第2章」以降の集計については、地区ごとの回収率を調整するため、小学5年生及び中学2年生の集計は、統計的な処理に基づく集計（ウェイト付き集計）となっている。そのため、小学5年生及び中学2年生のクロス集計グラフでは「n」（後述）の数値の表記を行っていない。
- 生活困難度を判定するための設問で無回答のため、判定不能としたものがある。そのため、困窮層、周辺層、一般層の合計は全体数と同数ではない。
- 世帯タイプは保護者票の子どもと父親、母親それぞれの同居状況から判別している。そのため、各制度や公的統計の定義とは必ずしも一致しない。
- 「調査結果」の図表は、原則として回答者の構成比（百分率）で表現している。
- 「n」は、「Number of case」の略で、構成比算出の母数を示している。
- 百分率による集計では、回答者数（該当質問においては該当者数）を100%として算出し、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記する。このため、すべての割合の合計が100%にならないことがある。
- 複数回答（2つ以上選ぶ問）の設問では、すべての割合の合計が100%を超えることがある。
- 図表中の「0.0」は四捨五入の結果又は、回答者が皆無であることを表す。
- 質問文を一部省略して表記している場合がある。
- グラフ及び文章中で選択肢を一部省略している場合がある。
- クロス集計グラフでは、見やすさを優先し「0.0」の数値表示を省略しているものがある。

4 回答者の基本属性

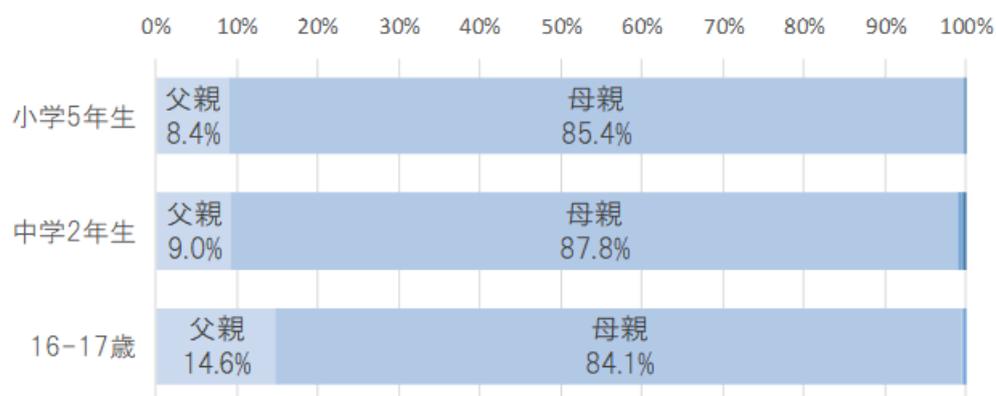
(1) 子どもの性別（上段：人）

	男子	女子	答えたくない	無回答	合計
小学5年生	958	972	23	57	2010
	47.7%	48.4%	1.1%	2.8%	100.0%
中学2年生	880	930	38	66	1914
	46.0%	48.6%	2.0%	3.4%	100.0%
16-17歳	334	309	13	19	675
	49.5%	45.8%	1.9%	2.8%	100.0%



(2) 保護者（回答者）と子どもの続柄（上段：人）

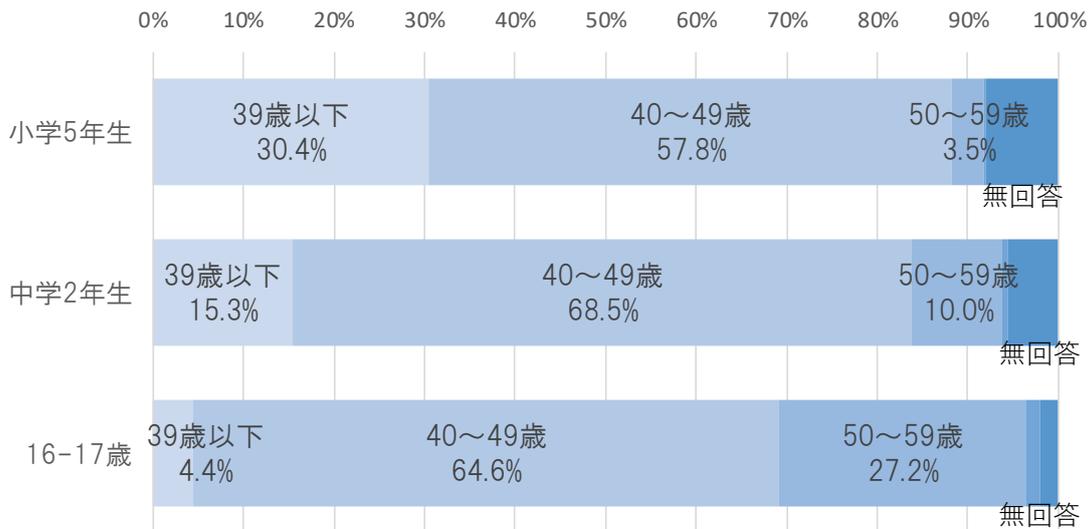
	父親	母親	祖父	祖母	兄弟姉妹	その他	施設職員	無回答	合計
小学5年生	170	1720	0	5	1	0	4	115	2015
	8.4%	85.4%	0.0%	0.2%	0.0%	0.0%	0.2%	5.7%	100.0%
中学2年生	173	1684	1	7	0	1	7	45	1918
	9.0%	87.8%	0.1%	0.4%	0.0%	0.1%	0.4%	2.3%	100.0%
16-17歳	100	578	1	3	0	0	0	5	687
	14.6%	84.1%	0.1%	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%	100.0%



（無回答除く）

(3) 保護者（回答者）の年齢（上段：人）

	39歳以下	40～49歳	50～59歳	60歳以上	無回答	合計	平均値
小学5年生	613	1165	70	4	163	2015	41.5歳
	30.4%	57.8%	3.5%	0.2%	8.1%	100.0%	
中学2年生	293	1314	191	14	106	1918	44.0歳
	15.3%	68.5%	10.0%	0.7%	5.5%	100.0%	
16-17歳	30	444	187	12	14	687	47.3歳
	4.4%	64.6%	27.2%	1.7%	2.0%	100.0%	

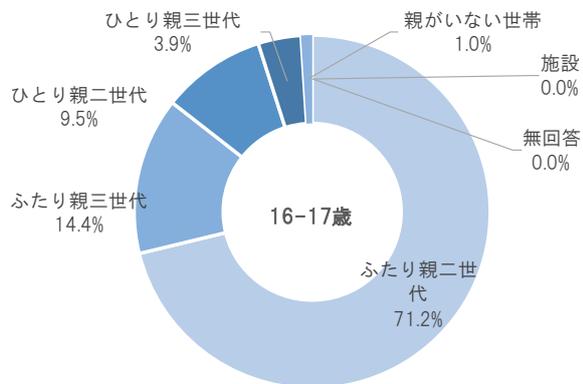
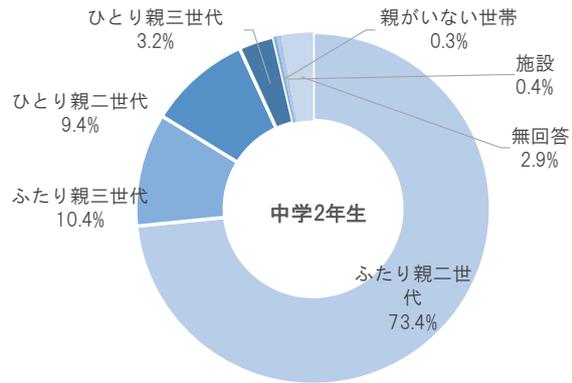
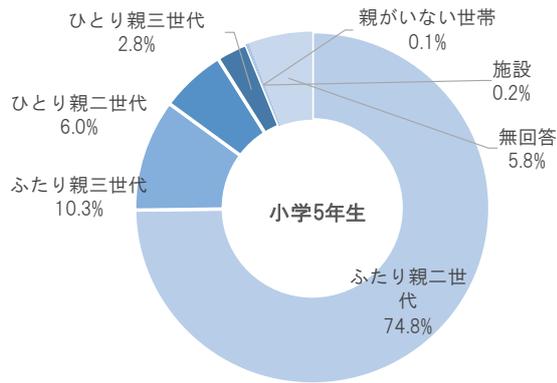


(4) 両親の国籍（上段：人）

	母親			父親			合計
	日本	日本以外	無回答	日本	日本以外	無回答	
小学5年生	1868	35	112	1831	26	158	2015
	92.7%	1.7%	5.6%	90.9%	1.3%	7.8%	100.0%
中学2年生	1836	35	47	1788	19	111	1918
	95.7%	1.8%	2.5%	93.2%	1.0%	5.8%	100.0%
16-17歳	671	5	11	647	7	33	687
	97.7%	0.7%	1.6%	94.2%	1.0%	4.8%	100.0%

(5) 世帯タイプ

	ふたり親		ひとり親		親がいない世帯	施設	無回答	合計
	二世帯	三世帯	二世帯	三世帯				
小学5年生	1507	207	121	57	2	4	117	2015
	74.8%	10.3%	6.0%	2.8%	0.1%	0.2%	5.8%	100.0
中学2年生	1408	200	180	62	6	7	55	1918
	73.4%	10.4%	9.4%	3.2%	0.3%	0.4%	2.9%	100.0%
16-17歳	489	99	65	27	7	0	0	687
	71.2%	14.4%	9.5%	3.9%	1.0%	0.0%	0.0%	100.0%



5 「生活困難層」の定義について

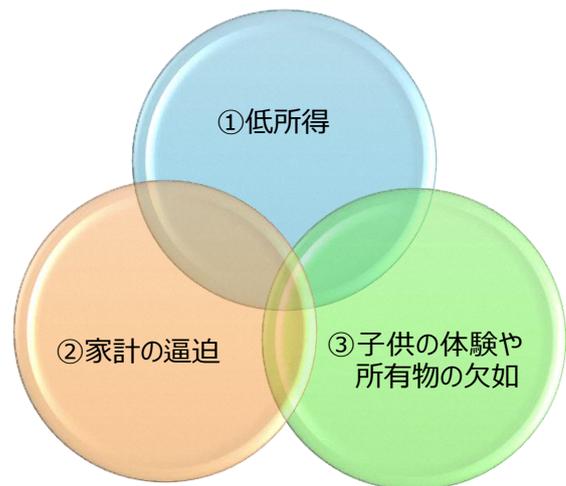
(1) 分類の方法

●本調査では、「生活困難層」等を以下の3つの要素に基づいて分類した。

①低所得	③子どもの体験や所有物の欠如
<p>等価世帯所得が厚生労働省「平成29年国民生活基礎調査」から算出される基準未満の世帯</p> <p><低所得基準> 世帯所得の中央値 442 万円 ÷ √平均世帯人数 (2.47 人) × 50% = 140.6 万円</p>	<p>子どもの体験や所有物などに関する次の15項目のうち、<u>経済的な理由</u>で、欠如している項目が3つ以上該当</p> <ol style="list-style-type: none"> 海水浴に行く 博物館・科学館・美術館などに行く キャンプやバーベキューに行く スポーツ観戦や劇場に行く 遊園地やテーマパークに行く* 毎月おこづかいを渡す 毎年新しい洋服・靴を買う 習い事(音楽、スポーツ、習字等)に通わせる 学習塾に通わせる(又は家庭教師に来てもらう) お誕生日のお祝いをする 1年に1回くらい家族旅行に行く クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる 子どもの年齢に合った本 子ども用のスポーツ用品・おもちゃ 子どもが自宅で宿題(勉強)をすることができる場所 * 16-17 歳は「友人と遊びに出かけるお金」
②家計の逼迫	
<p><u>経済的な理由</u>で、公共料金や家賃を支払えなかった経験や食料・衣類を買えなかった経験などの7項目のうち、1つ以上に該当</p> <ol style="list-style-type: none"> 電話料金 電気料金 ガス料金 水道料金 家賃 家族が必要とする食料が買えなかった 家族が必要とする衣類が買えなかった 	

◆生活困難層（困窮層・周辺層）、一般層

生活困難層	困窮層 + 周辺層
困窮層	2つ以上の要素に該当
周辺層	いずれか1つの要素に該当
一般層	いずれの要素にも該当しない

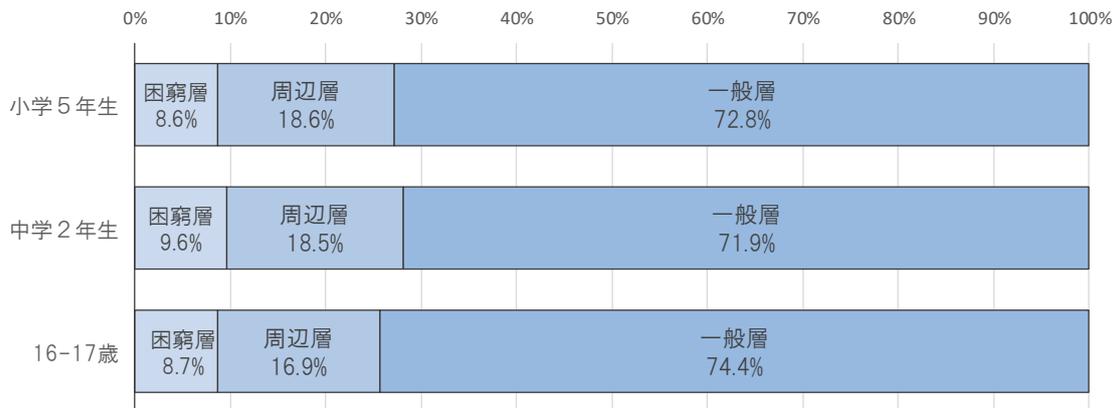


(2) 生活困難層の割合

(生活困難層の内訳)

区 分		小学5年生	中学2年生	16-17歳
生活困難層		27.2%	28.1%	25.9%
	困窮層	8.6%	9.6%	8.7%
	周辺層	18.6%	18.5%	16.9%
一般層		72.8%	71.9%	74.4%

※端数処理の関係で、合計が100.0%とならない場合があります。



(世帯タイプ別生活困難層の内訳)

区 分		年 齢 層	ふたり親 (二世帯)	ふたり親 (三世帯)	ひとり親 (二世帯)	ひとり親 (三世帯)
生活 困難 層	困窮層	小学5年生	5.0%	5.1%	35.4%	35.0%
		中学2年生	7.1%	8.8%	24.5%	27.4%
		16-17歳	5.7%	5.4%	30.2%	25.0%
	周辺層	小学5年生	14.3%	12.1%	22.9%	24.8%
		中学2年生	14.0%	19.6%	33.5%	46.8%
		16-17歳	16.0%	12.2%	28.3%	20.0%
一般層		小学5年生	80.8%	82.8%	41.8%	40.2%
		中学2年生	78.9%	71.5%	42.0%	25.8%
		16-17歳	78.4%	82.4%	41.5%	55.0%

※端数処理の関係で、合計が100.0%とならない場合があります。

アンケートの主な結果

1 生活困窮の状況

(1) 家計の状況

食料、衣類の購入ができなかった経験、公共料金の滞納経験は困窮層で特に多い。

① 過去1年の食料や衣類の購入、公共料金の支払い状況

小学5年生、中学2年生の約12%の世帯において、過去1年間に金銭的な理由で食料が買えなかった経験があり、約18%で衣類が買えなかった経験がある。また、約3%の世帯において公共料金（電話、電気、ガス、水道）の滞納経験がある。これらの経験の割合は困窮層で特に高く、食料では約64%、衣類では約78%、公共料金では電話、電気、ガス、水道により異なるが、約23～29%である。

(2) 子どもの生活水準（所有物と体験）

経済的理由でできないことは学校以外での学習。子どもの年齢により困難状況が変化。

① 所有物の状況

小学5年生、中学2年生が「欲しいが、持っていない」とした物品は「携帯音楽プレーヤー」「(自宅で)インターネットにつながるパソコン」「携帯電話、スマートフォン」が上位であった。

② 子どもへの支出

保護者が「経済的にできない」子どものための支出は「習いごと」、「学習塾（または家庭教師）」、「1年に1回くらいの家族旅行」であり、約1～2割の世帯がこれに該当する。特に、「習いごと」、「1年に1回くらいの家族旅行」では年齢の高い子どもをもつ保護者ほど、支出できないとする割合が多い。

③ 子どもの体験

小学5年生と中学2年生の保護者に、過去1年間において、海水浴、博物館、キャンプ、スポーツ観戦、遊園地などといったさまざまな体験や施設に子どもと行くことがあったかと聞いたところ、行き先などにより多少の差異はあるものの、「金銭的な理由」で体験が「ない」としたのは、小学5年生では約3～6%、中学2年生では約4～8%である。「時間的な制約」で体験が「ない」としたのは、小学5年生では約6～13%であり、中学2年生では約15～23%である。困窮層では小学5年生保護者の約29～37%、中学2年生保護者の約25～41%が「金銭的な理由」によってこれらの体験を子どもにさせることができないとしている。

(3) 子供の食と栄養

困窮層では朝食を執らない割合が高くなる。16-17歳の困窮層では植物性たんぱく質、乳製品、果物の摂取頻度が少なくなる。

① 朝食の摂取状況

中学2年生の2.1%が朝食を「いつも食べない」、3.9%が「食べないほうが多い(週1、2日)」。困窮層では「いつも食べない」、4.1%が「食べないほうが多い(週1、2日)」10.3%である。

② 栄養群の摂取状況

小学5年生、中学2年生とも6割以上が給食以外に野菜を毎日食べるが、「1週間に2~3日」以下の子どもも約12~16%存在する。小学5年生の困窮層では、約3割が「1週間に2~3日」以下である。「肉か魚」についても同様に「1週間に2~3日」以下の子どもが存在する。「果物」については、給食以外にまったく「食べない」子どもが小学5年生で6.4%、中学2年生では5.5%である。

16-17歳では、食事の回数が「ほぼ毎日2食」以下である割合が全体の12.7%となっている。困窮層では、17.0%が「ほぼ毎日2食」以下である。動物性たんぱく質では差がないものの、植物性たんぱく質、乳製品、果物では困窮層は一般層に比べ摂取頻度が少ない。反対に野菜の摂取頻度は多くなっている。

(4) 住宅の状況

約8割は4室以上の住居に住んでいる。2室以下に住むのは約2%。

① 居住用の室数

住居の部屋数では「4室以上」(玄関・風呂等を含まない)が約8割であるが、約2%は「2室以下」である。

2 子どもの学び

(1) 学校選択

「公立」高校への進学は経済的理由が大きい、困窮層では成績によるところもある。

高校の選択を学校の種類別にみると一般層は公立が 54.8%、私立が 42.9%であり、困窮層は公立が 60.9%、私立が 37.0%となっている。

公立高校に進学した理由は、「私立高校の授業料などの費用が高かった」が一般層では 46.0%であるのに対し周辺層では 57.1%、困窮層では 67.9%である。私立高校に進学した理由は一般層では「教育の質が高いと思った」37.5%、「教育方針が気に入った」28.6%が多いのに対し、困窮層では「公立高校の入試に合格しなかった」が 41.2%で最も多い。

(2) 授業の理解度

困窮層では「授業がわからない」子どもの割合が高くなる。

① 授業の理解度

小学 5 年生の 81.9%が学校の授業を「いつもわかる」「だいたいわかる」と答えているものの、15.9%は「あまりわからない」「わからないときの方が多い」「ほとんどわからない」と回答している。中学 2 年生ではこの割合が 28.2%である。困窮層ほど割合は高くなり、小学 5 年生では約 3 割、中学 2 年生では約 4 割となっている。

また、小学 5 年生の授業がわからない子どもの 29.4%が、小学 3 年生までにわからなくなったと回答し、中学 2 年生の授業がわからない子どもの 39.7%が、小学生段階でわからなくなったと回答している。

16-17 歳の 29.4%は、「あまりわからない」「わからないときの方が多い」「ほとんどわからない」と回答している。授業が「わからないときの方が多い」「ほとんどわからない」子どもは、一般層で 14.3%であるのに対し、困窮層では 26.1%である。

(3) 学校外での学習状況

学習塾に通える子どもの割合は困窮層では低くなる。

① 通塾状況

学習塾に通っている(または家庭教師に来てもらっている)子どもは小学5年生で33.8%、中学2年生で56.3%、16-17歳で19.2%いる。この割合は困窮層ほど低くなり、困窮層の小学5年生で19.9%、中学2年生で36.9%、16-17歳で6.5%となる

(4) 学習環境

小5の困窮層では約3割が自分の勉強机を持っていない。すべての年齢層で、約4割の子どもが、家で勉強できないときに静かに勉強ができる場所を求めている。

① 学習環境の欠如の状況

「インターネットにつながるパソコン」がない子どもは、小学5年生で43.7%、中学2年生で31.2%、「自分だけの本」は小学5年生で20.1%、中学2年生で10.5%である。困窮層で「インターネットにつながるパソコン」がない子どもは、小学5年生で58.5%、中学2年44.8%、小学5年生では「自分専用の勉強机」がない子どもが約3割いる。

各年齢層の約3~5%が「自宅で宿題(勉強)をすることができる場所」が「ない(ほしい)」としている。困窮層では、この割合は小学5年生で9.9%、中学2年生で6.1%、16-17歳で6.4%である。どの年齢層においても、約4割の子どもが「家で勉強できないとき、静かに勉強ができる場所」を「使ってみたい」としている。

3 子どもの日常生活

(1) 放課後の過ごし方

放課後は、小5は自宅、中2は学校（部活など）で過ごすことが多い。クラブ活動などは困窮層ほど参加率が低くなる。

① 放課後の過ごし方

平日の放課後に過ごす場所について、過ごす頻度が「週に3～4日」以上の割合をみると、小学5年生では「自分の家」が最も多く66.9%、次いで「塾や習い事」が20.6%、「公園」が13.4%である。中学2年生では「学校（部活など）」が最も多く73.4%、次いで「自分の家」が58.7%、「塾や習い事」が15.1%である。

クラブ活動などについては、中学2年生の9割、16-17歳の7割が参加しており、困窮層ほど参加率が低い。

(2) 友人関係

小・中学生に比べ、16-17歳では平日の放課後（など）に一人で過ごすことが多い。

① 友人関係と孤立

16-17歳の約5人に1人（18.2%）は平日の放課後に「一人で過ごす」ことが多い。小学5年生では5.9%、中学2年生で8.2%である。

② いじめ

いじめられたことが「よくあった」「時々あった」と回答した小学5年生は一般層で多く17.4%であった。

(3) 居場所事業等の利用意向について

平日夜までの居場所、休日の居場所を中2・16-17歳の約4割が求める。利用意向は困窮層で高くなる。どの年齢層の子どもでも「家の人がいなくて、夕ごはんをみんなで食べることができる場所」の利用意向・興味は高いが、特に困窮層で高くなる。

① 居場所事業の利用意向

居場所事業については、中学2年生、16-17歳の約4割が、「(家以外で) 平日の放課後に夜まで安心してすることができる場所」「(家以外で) 休日にいることができる場所」を「使ってみたい」としている。生活困難度別には、潜在ニーズはどの層においても高くなっているが困窮層は一般層と比べて「使ってみたい」「興味がある」とする子どもの割合がより多く、居場所事業が困窮層のニーズに対応していることがうかがえる。

夜遅くまで子どもだけで過ごした経験のある小学5年生は約5%である。就労している小学5年生の母親の4.5%が早朝(5~8時)、5.0%が夜勤(20~22時)、40.9%が土曜出勤、26.5%が日曜・祝日出勤の仕事がある。小学5年生の約5割、中学2年生、16-17歳の約6割が「(家以外で) 平日の放課後に夜まで安心してすることができる場所」を「使ってみたい」「興味がある」としている。

② 「夕ごはんをみんなで食べることができる場所」の利用意向

どの年齢層も約4~5割の子どもが「家の人がいなくて、夕ごはんをみんなで食べることができる場所」について「使ってみたい」「興味がある」としている。この割合は困窮層ほど高い。

4 子どもの健康と自己肯定感

(1) 健康・医療

主観的健康観、保護者からみた健康状態、むし歯、いずれも困窮層では状況が悪くなる。医療機関の受診を控える割合も困窮層で高くなる。

① 子どもの健康状態

子どもの主観的健康状態及び保護者からみた子どもの健康状態は、困窮層ほど「よい」「まあよい」の割合は低い。むし歯がある子どもは困窮層で多くなっており「4本以上」ある子どもは小学5年生で5.2%、中学2年生で5.1%、16-17歳で4.3%となっている。

② 医療機関の受診抑制

すべての年齢層において約1割の保護者が過去1年間に、子どもを医療機関で受診させた方がよいと思ったが、実際には受診させなかったことがある」としている。この割合は困窮層ほど高くなっている。

受診抑制の理由は、各年齢層の困窮層で「様子改善」や「多忙」が多くなっているが、16-17歳の困窮層では一般層、周辺層に比べ「自己負担金を支払うことができないと思ったため」が多くなっている。

小学5年生、中学2年生の任意接種であるインフルエンザ、おたふくかぜ、水ぼうそうの未接種率は3~5割となっている。未接種率は困窮層ほど高い。

(2) 自己肯定感

小5・中2の困窮層では自己肯定感が低くなり、16-17歳の困窮層では主観的な幸福度が低くなる。16-17歳の困窮層では抑うつ傾向も一般層と比べて高くなる。

① 自己肯定感

自己肯定感について8項目(9項目)を聞いたところ、小学5年生では「孤独を感じることはない」、中学2年生では「自分は価値のある人間だと思う」、16-17歳では「自分は価値のある人間だと思う」「自分の将来が楽しみだ」について、困窮層では一般層より否定的な回答(「(そう)思わない」)を選択する割合が高くなっている。

② 子どもの主観的幸福度

16-17歳の子どもに、この1年間を振り返っての幸福度を0(とても不幸)から10(とても幸せ)の11段階で聞いたところ、幸福度が低い(幸福度0-3)割合は、一般層が5.6%、困窮層が14.9%、幸福度が高い(幸福度8-10)割合は、一般層が51.1%、困窮層が38.3%となっており、一般層に比べ困窮層の子どもの主観的幸福度は低い傾向にある。

③ 子どもの抑うつ傾向

16-17歳の23.4%が「気分・不安障害相当」(K6¹スケールにて10+)と見られ、抑うつ傾向は一般層と比べて困窮層に多い。

5 保護者の状況

(1) 保護者の就労状況

父親の就労状況は正規社員が最も多いが、困窮層ではその割合が低くなる。母親は非正規社員が最も多く、正規社員の割合でみると小5・中2の母親では一般層での約2割に比べ困窮層では約1割。

① 父親の就労状態

父親の就労状況は正規社員が最も多く、約8割となっている。この割合は小学校5年生と中学校2年生の困窮層ほど低くなり、困窮層の小学校5年生の父親では約7割、中学2年生の父親では約6割となっている。

② 母親の就労状況

母親の就労状況は非正規社員が最も多く、小学5年生と16-17歳の母親の約5割、中学2年生の母親の約6割が非正規社員である。生活困難度別に正規社員の割合をみると、小学5年生と中学2年生の母親では、困窮層が約1割、一般層が約2割と差が出ている。

¹ K6(ケイシックス): 心理的ストレスを含む何らかの精神的な問題の程度を表す指標として広く利用されているもの。スケールの数値5以上は抑うつ傾向があるとされており、この状態が長く続くとうつ病等の可能性が出てくるとされる。

(2) 保護者の健康状態と精神的ストレス

保護者の健康状態は困窮層で低くなる。保護者の抑うつ傾向は困窮層で高くなる。

①保護者の健康状態

各年齢層でそれぞれ約 9 割の保護者は、自分の健康状態について「よい」「まあよい」「ふつう」と答えている。この割合は困窮層ほど低くなり、各年齢層で約 8 割となっている。

②保護者の抑うつ傾向

「気分・不安障害相当」(K6 スケールにて 10+) と見られる保護者は、各年齢層において約 1 割となっている。この割合は困窮層ほど高くなり、困窮層の小学 5 年生と中学 2 年生の保護者は約 3 割、16-17 歳の保護者は約 2 割となる。

(3) 相談相手

困ったときに相談する相手が「いない」保護者の割合は困窮層ほど高い。

①保護者の相談相手

小学 5 年生の保護者の 4.1%、中学 2 年生の保護者の 4.8%、16-17 歳の保護者の 6.3%が困ったときに相談する相手について「いない」と回答しており、この割合は困窮層ほど高くなっている。

6 制度・サービスの利用

(1) 子ども本人の支援サービス利用意向

学校外の学習支援の潜在ニーズは、保護者・子どもともに高い。16-17歳の子どもは、一般層に比べ困窮層の子どもの方が、各種支援サービスの利用意向が総じて高い。

① 支援サービスへの子どもの利用意向

子どもが利用意向のある支援サービスは、「家で勉強できないとき、静かに勉強ができる場所」について、「使ってみたい」「興味がある」の割合が高く、約6~7割となっている。また16-17歳については、一般層に比べ困窮層の子どもの方が、各種支援サービスの利用意向が高い傾向にある。

学校外の学習支援の潜在ニーズは高く、「大学生のボランティアなどが、勉強を無料でみてくれる場所」について、子どもの約5~6割が「使ってみたい」「興味がある」と回答している。また、保護者の約3割が「学校以外が実施する学習支援」に対して「利用したい」と回答している。

(2) 情報の受け取り方法

一般層に比べ困窮層の家庭の方が、行政発信の情報が届いていない可能性が高い。

① 施策情報の受け取り方法

子どもに関する施策の情報の受け取り方法については、「学校からのお便り（紙のもの）」が最も多く、すべての年齢層で約8割となっている。また、行政経由の情報取得方法である「行政機関の広報誌」「行政機関のホームページ」について、一般層よりも困窮層の利用率が低い。

(3) 支援サービス利用状況・認知状況・利用意向

支援が必要と思われる子どもの方が、各支援サービスについて知らずに利用していない可能性が高い。全年齢の保護者において、学習支援へのニーズが高い。

① 支援サービスの利用状況・認知状況

小学5年生と中学2年生では「子ども食堂」「フードバンクによる食料支援」「学校以外が実施する学習支援」、16-17歳では「フードバンクによる食料支援」「中学卒業後の子どもが自由に時間を過ごせる場所」「学校以外が実施する学習支援」について、知らないため利用されていない割合（非認知による不利用率）が高く、約3割となっている。また、困窮層は一般層に比べ、各支援サービスについて非認知による不利用率が高い傾向にある。

② 支援サービスへの保護者の利用意向

保護者が利用意向のある支援サービスは、すべての年齢層で「学校が実施する補講」への利用意向が最も高く、次いで「学校以外が実施する学習支援」、「居場所事業（小学高学年も利用できる児童館や児童クラブ、中学生以上の子どもが自由に時間を過ごせる場所など）」と続いている。

アンケートの主な集計結果

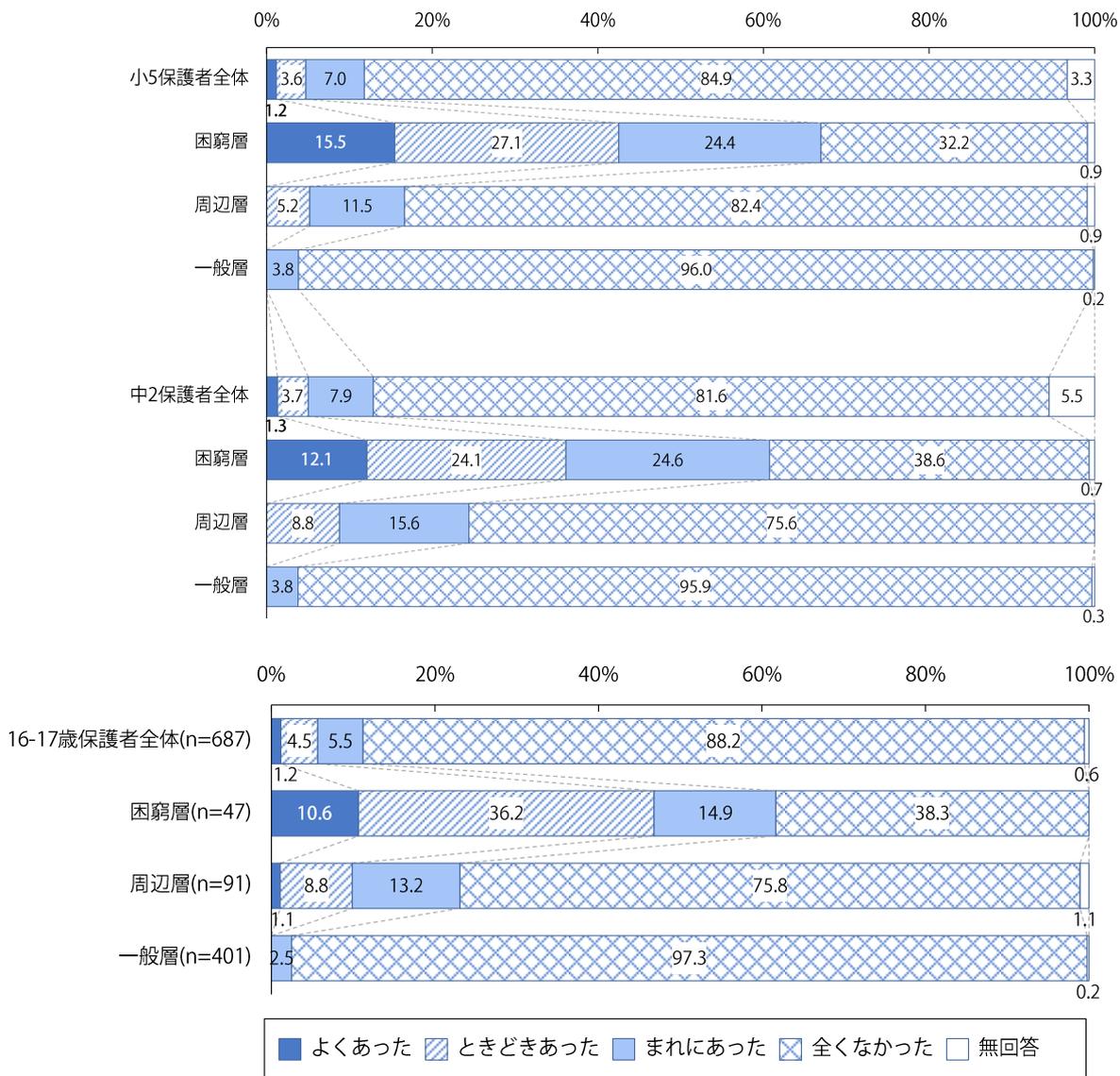
1 生活困窮の状況

(1) 食料が買えなかった経験

【保護者票】

過去1年間に食料が買えなかったことについて、「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」を合わせた“あった”と回答した割合は、小学5年生の一般層で3.8%、周辺層で16.7%、困窮層で67.0%、中学2年生の一般層で3.8%、周辺層で24.4%、困窮層で60.8%、16-17歳の一般層で2.5%、周辺層で23.1%、困窮層で61.7%となっている。

【小5・中2】問29 【16-17歳】問30 過去1年買えなかった経験/食料

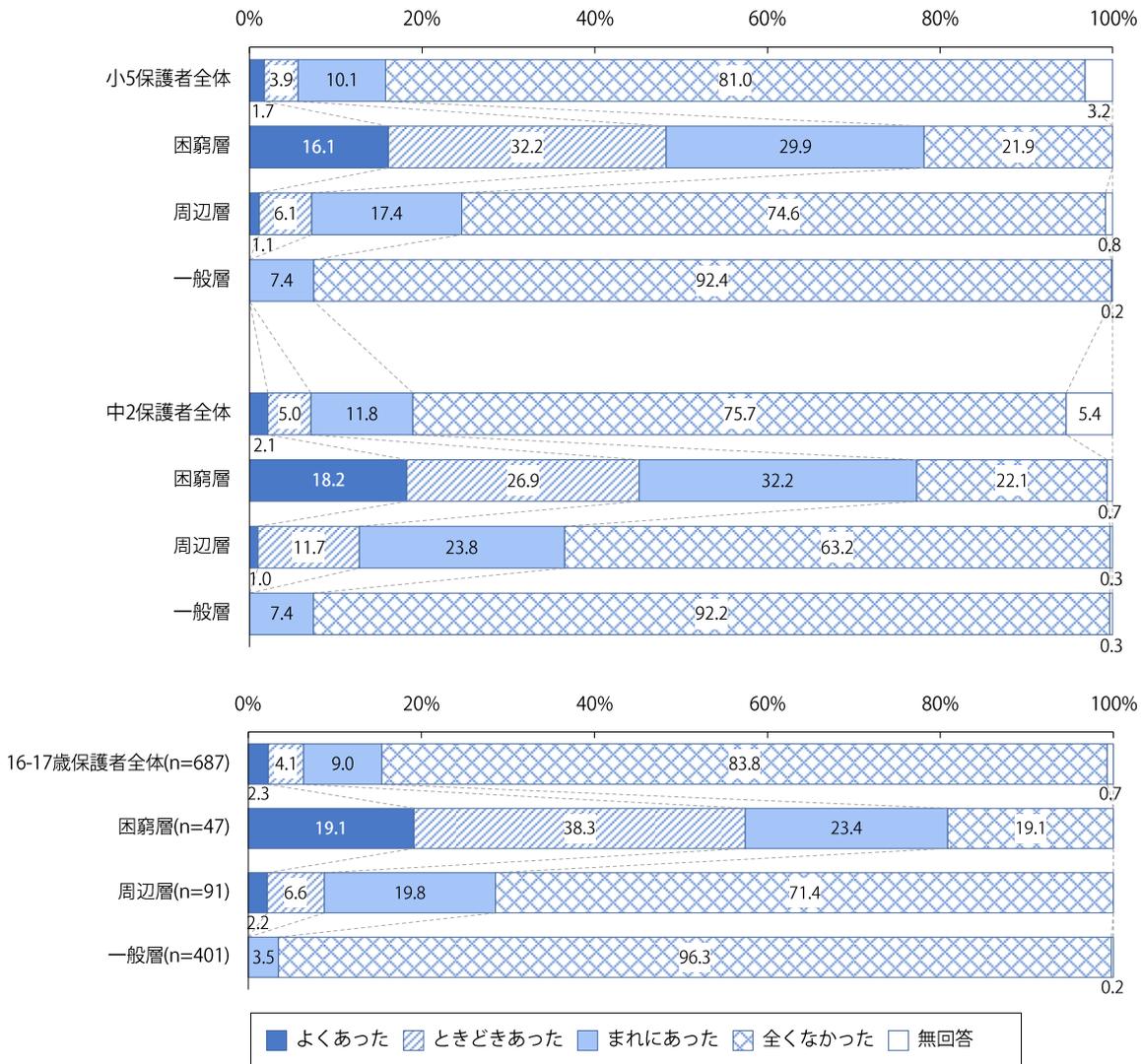


(2) 衣類が買えなかった経験

【保護者票】

過去1年間に衣類が買えなかったことについて、「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」を合わせた“あった”と回答した割合は、小学5年生の一般層で7.4%、周辺層で24.6%、困窮層で78.2%、中学2年生の一般層で7.4%、周辺層で36.5%、困窮層で77.3%、16-17歳の一般層で3.5%、周辺層で28.6%、困窮層で80.8%となっている。

【小5・中2】問30 【16-17歳】問31 過去1年買えなかった経験／衣類

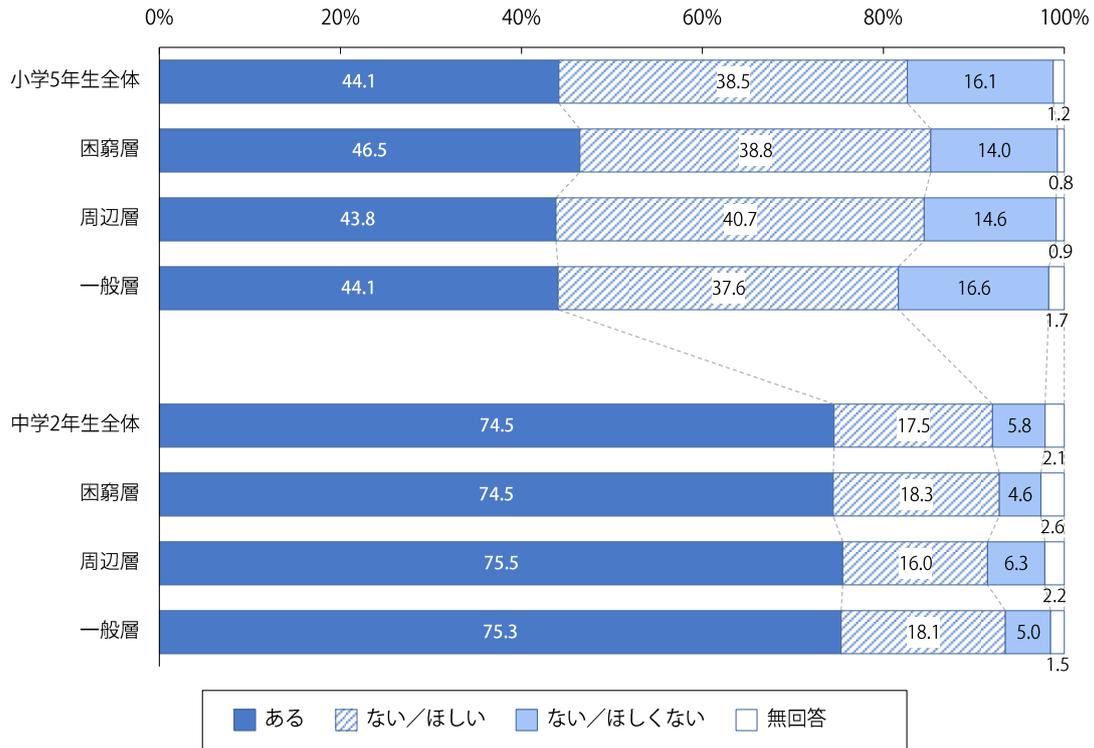


(3) 子どもの所有物/携帯電話（スマートフォン）

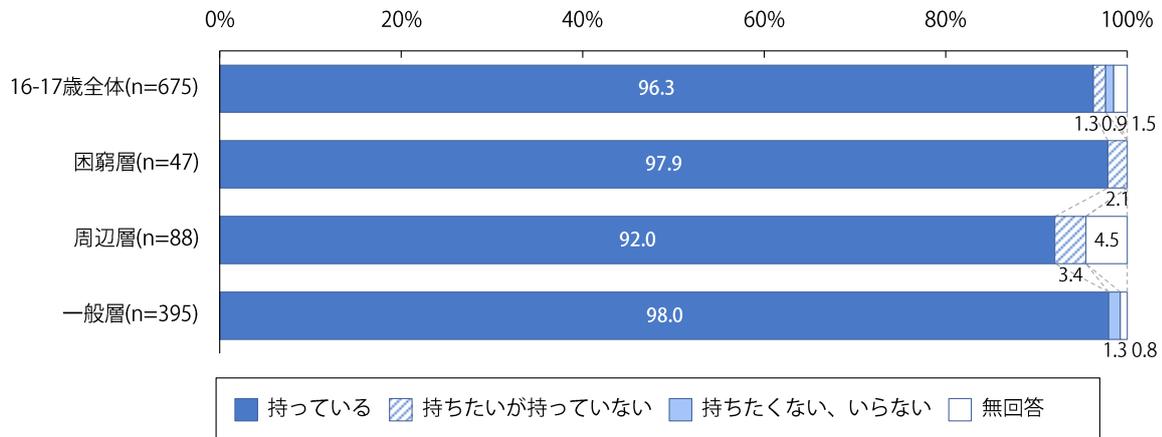
【子ども票】

子どもの所有物のうち携帯電話（スマートフォン）について、「ない／ほしい」（16-17 歳では「持ちたいが持っていない」）と回答した割合は、小学 5 年生の一般層で 37.6%、周辺層で 40.7%、困窮層で 38.8%、中学 2 年生の一般層で 18.1%、周辺層で 16.0%、困窮層で 18.3%、16-17 歳の一般層で 0.0%、周辺層で 3.4%、困窮層で 2.1%となっている。

【小5・中2】問3 使うことができるもの/Mけいたい電話、スマートフォン



【16-17 歳】問4 物品の所有状況/ Jスマートフォン



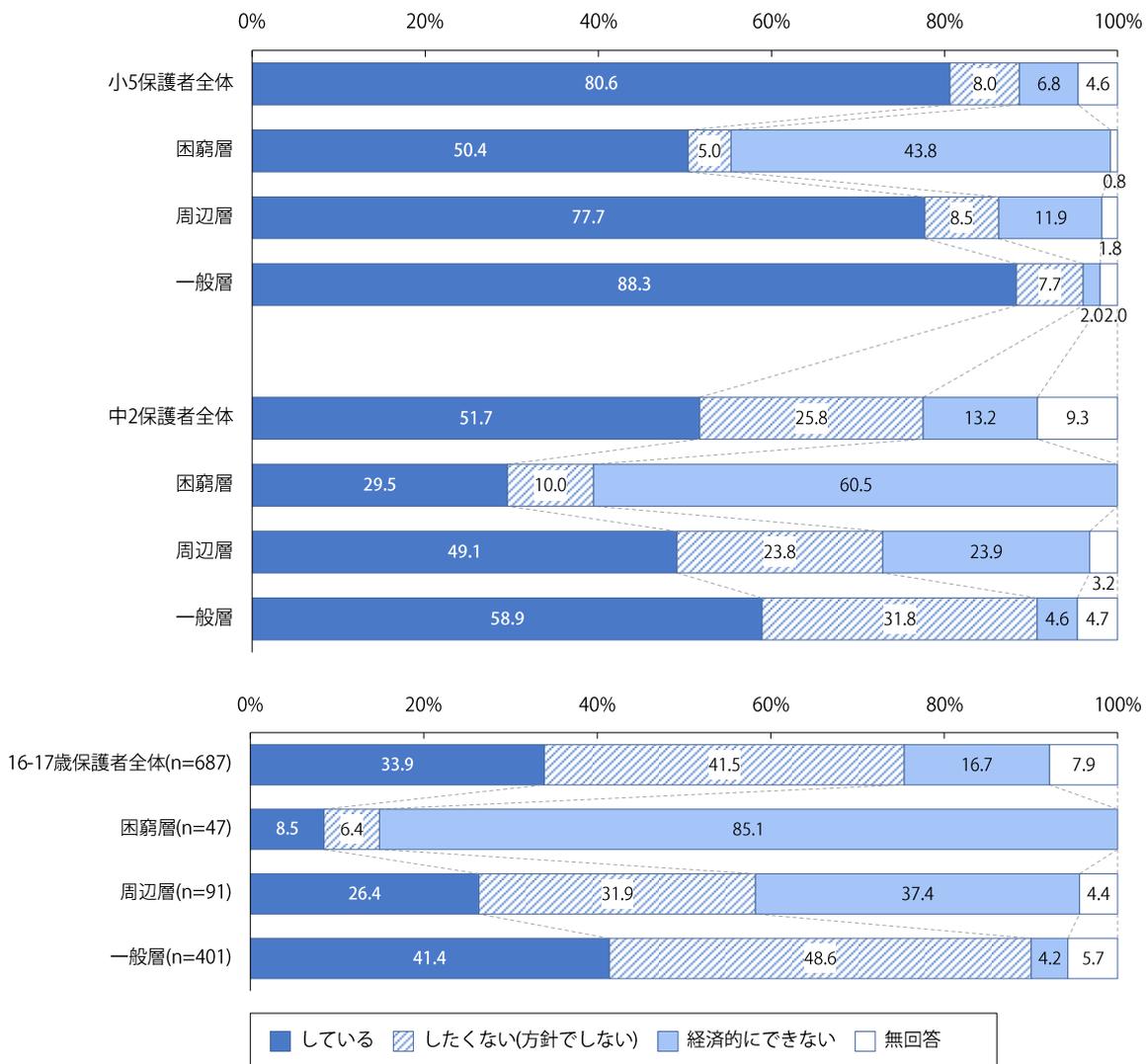
(4) 子どもにしていること/習い事

【保護者票】

子どもを習い事(音楽、スポーツ、習字等)に通わせることについて、「経済的にできない」と回答した割合は、小学5年生の一般層で2.0%、周辺層で11.9%、困窮層で43.8%、中学2年生の一般層で4.6%、周辺層で23.9%、困窮層で60.5%、16-17歳の一般層で4.2%、周辺層で37.4%、困窮層で85.1%となっている。

【小5・中2】問33 【16-17歳】問34

子どもにしていること/C習い事(音楽、スポーツ、習字等)に通わせる



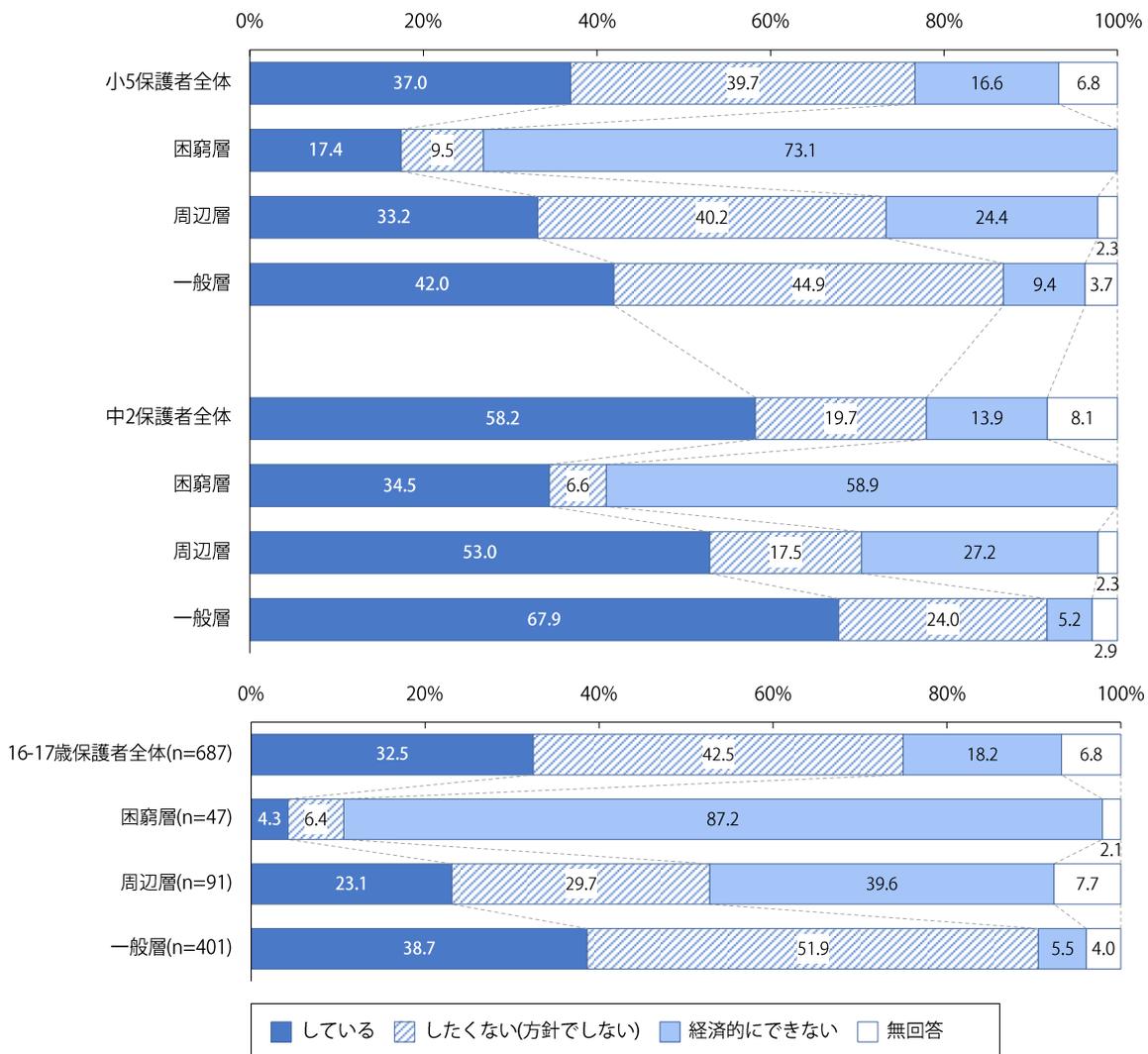
(5) 子どもにしていること/学習塾に通わせる

【保護者票】

子どもを学習塾に通わせる（または家庭教師に来てもらう）ことについて、「経済的にできない」と回答した割合は、小学5年生の一般層で9.4%、周辺層で24.4%、困窮層で73.1%、中学2年生の一般層で5.2%、周辺層で27.2%、困窮層で58.9%、16-17歳の一般層で5.5%、周辺層で39.6%、困窮層で87.2%となっている。

【小5・中2】問33 【16-17歳】問34

子どもにしていること/D学習塾に通わせる（または家庭教師に来てもらう）



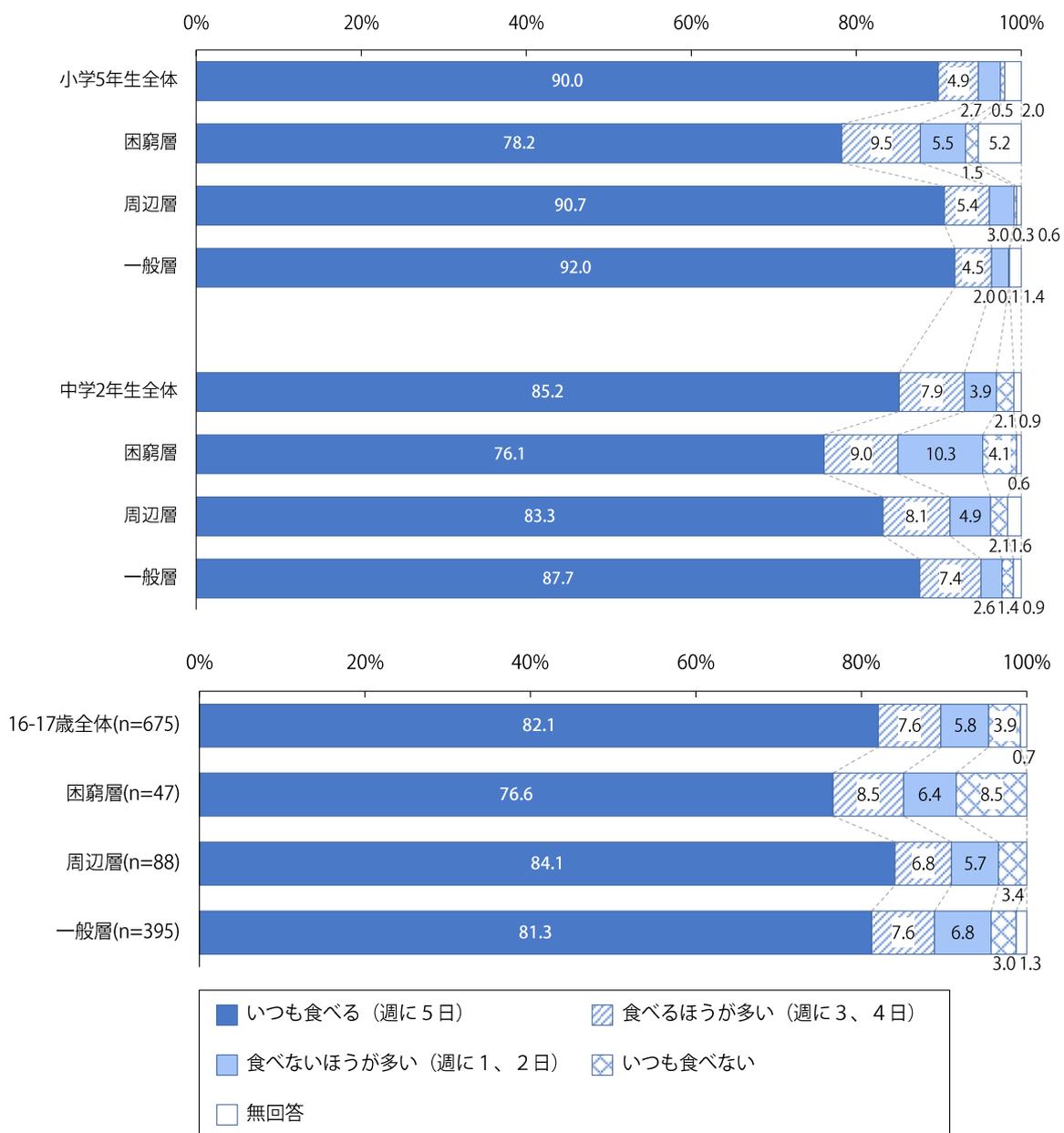
2 子どもの状況

(1) 朝食の摂取状況

【子ども票】

子どもの平日の摂取状況について、「食べないほうが多い（週に1、2日）」と「いつも食べない」を合わせた割合は、小学5年生の一般層で2.1%、周辺層で3.3%、困窮層で7.0%、中学2年生の一般層で4.0%、周辺層で7.0%、困窮層で14.4%、16-17歳の一般層で9.8%、周辺層で9.1%、困窮層で14.9%となっている。年齢が上がるほど食べないことが多くなる傾向にあり、いずれの年齢層でも困窮層でその割合が高くなっている。

【小5・中2】問17 【16-17歳】問19 平日に朝食をとる頻度

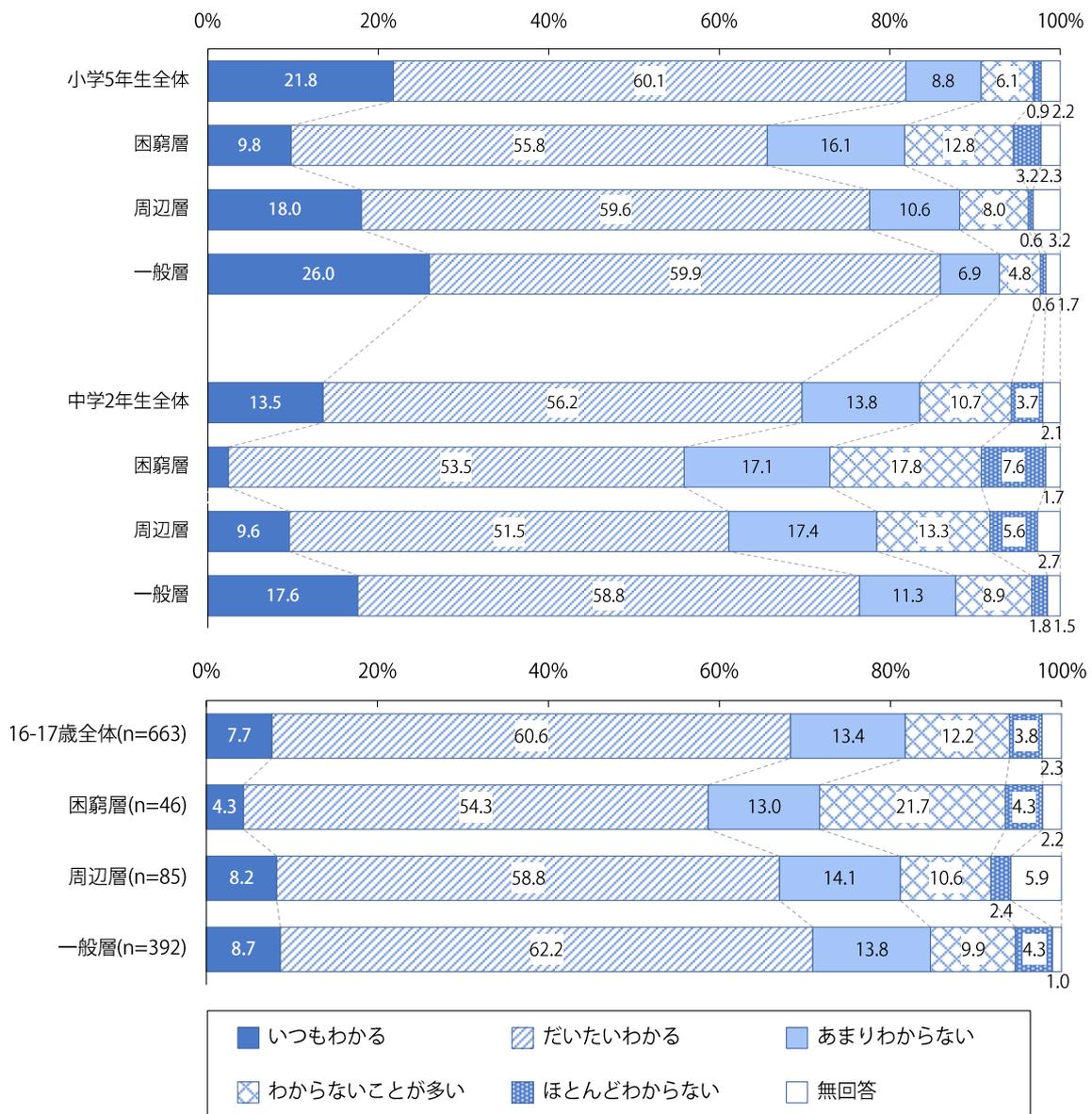


(2) 学校の授業の理解度

【子ども票】

子どもの平日の学校の授業の理解度について、「わからないことが多い」と「ほとんどわからない」を合わせた割合は、小学5年生の一般層で5.4%、周辺層で8.6%、困窮層で16.0%、中学2年生の一般層で10.7%、周辺層で18.9%、困窮層で25.4%、16-17歳の一般層で14.2%、周辺層で13.0%、困窮層で26.0%となっている。いずれの年齢層でも困窮層でその割合が高くなっている。

【小5・中2】問24 【16-17歳】問33 学校の授業の理解度

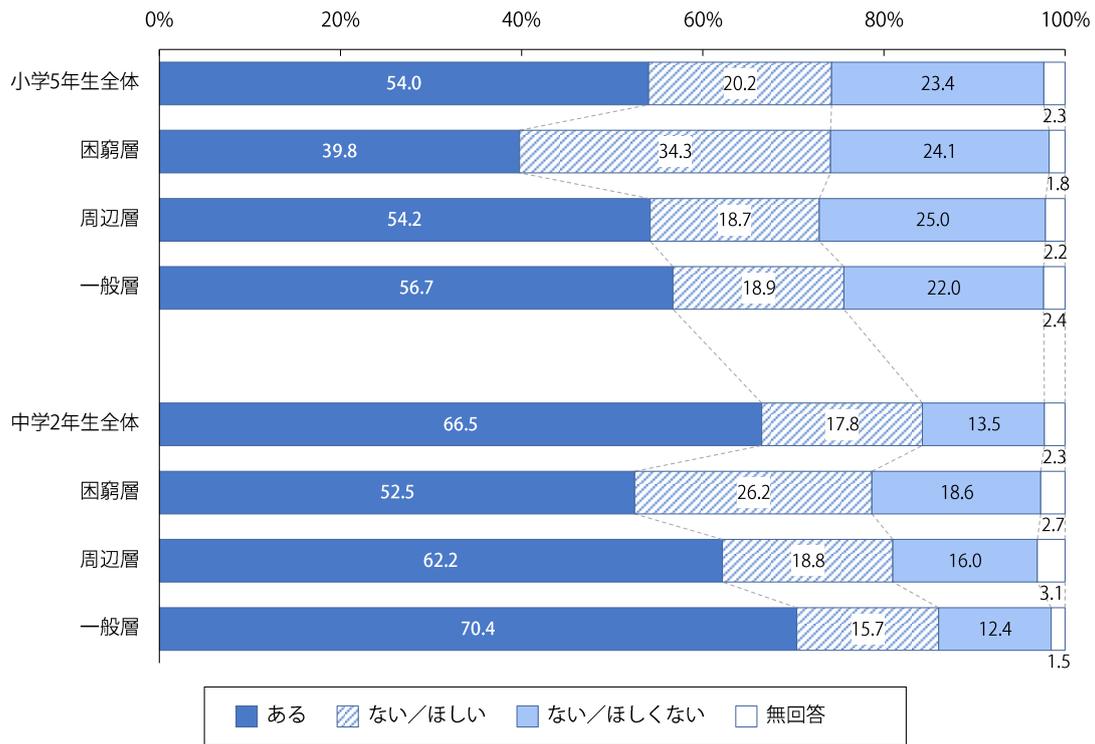


(3) 子どもの所有物/インターネットにつながるパソコン

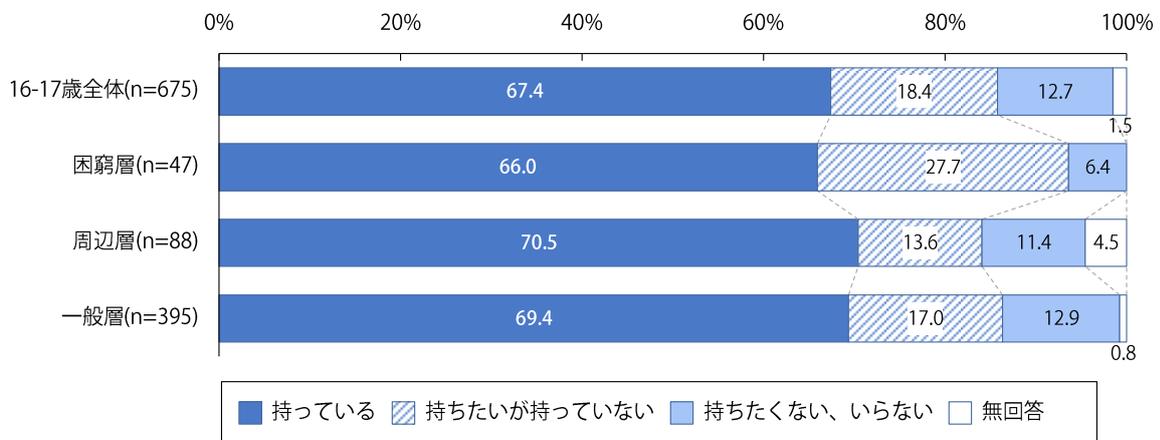
【子ども票】

子どもの所有物のうち、学習環境の一つとしても考えられるインターネットにつながるパソコンについて、「ない/ほしい」（16-17歳では「持ちたいが持っていない」）と回答した割合は、小学5年生の一般層で18.9%、周辺層で18.7%、困窮層で34.3%、中学2年生の一般層で15.7%、周辺層で18.8%、困窮層で26.2%、16-17歳の一般層で17.0%、周辺層で13.6%、困窮層で27.7%となっている。いずれの年齢層でも困窮層でその割合が高くなっている。

【小5・中2】問3 使うことができるもの/C（自宅で）インターネットにつながるパソコン



【16-17歳】問4 物品の所有状況/ Fインターネットにつながるパソコン

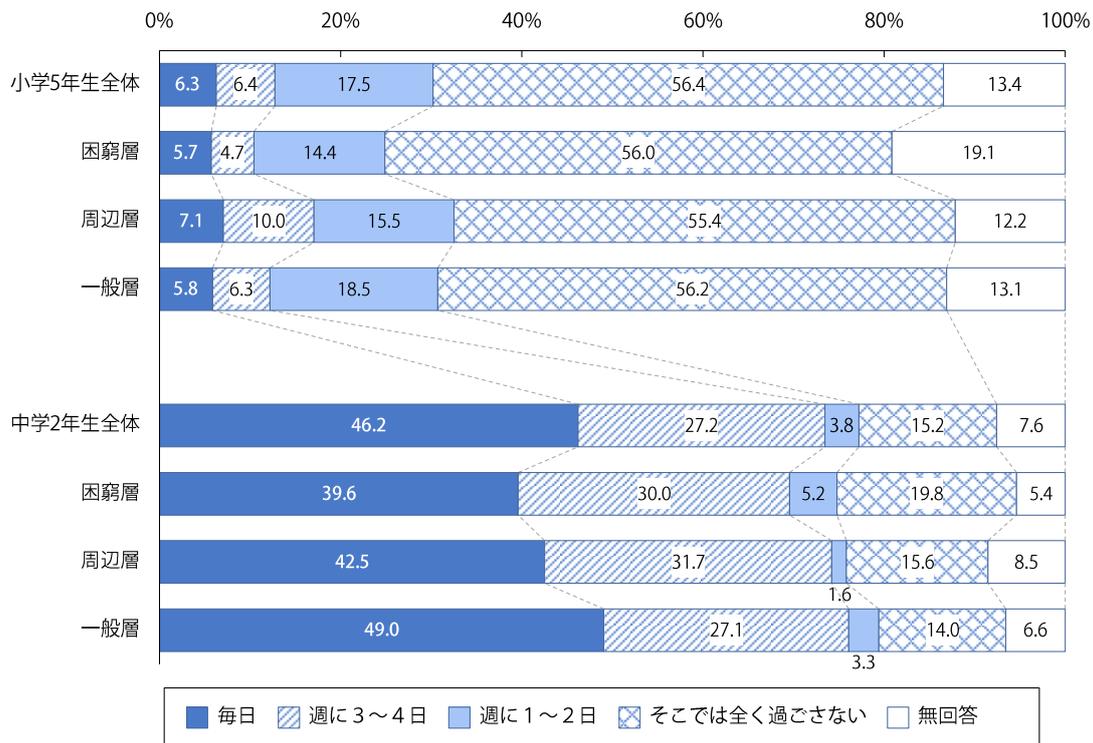


(4) 子どもの日常/平日の放課後、平日の自由時間の過ごし方

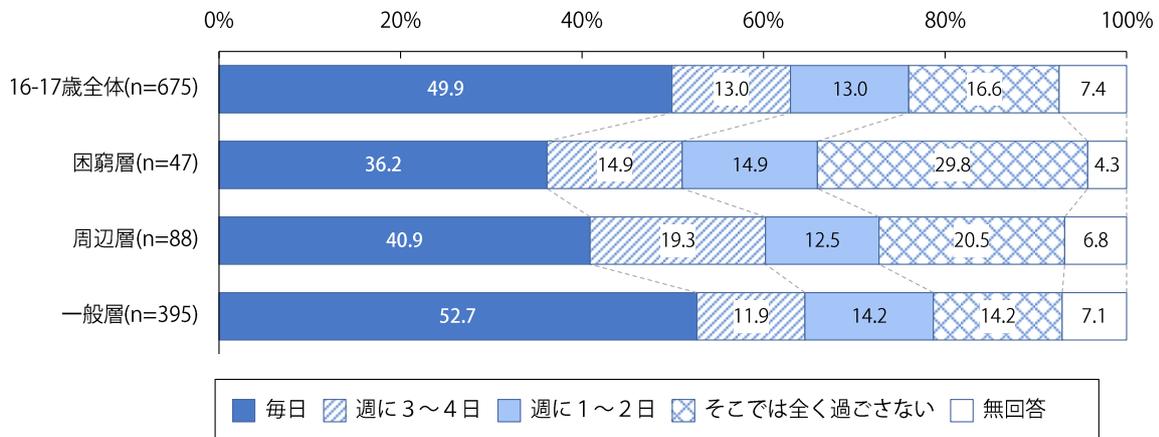
【子ども票】

子どもの平日の放課後、平日の自由時間の過ごし方で部活やクラブ活動を含む「学校」について、「そこでは全く過ごさない」と回答した割合は、小学5年生の一般層で56.2%、周辺層で55.4%、困窮層で56.0%、中学2年生の一般層で14.0%、周辺層で15.6%、困窮層で19.8%、16-17歳の一般層で14.2%、周辺層で20.5%、困窮層で29.8%となっている。生活困難度との明確な相関はみられないが、年齢があがるほど困窮層では学校で過ごさなくなる傾向がみられる。

【小5・中2】問8 平日の放課後その場所で過ごす頻度/E学校(クラブ活動、学童保育室ふくむ)



【16-17歳】問9 平日の自由時間にその場所で過ごす頻度/D学校(部活含む)

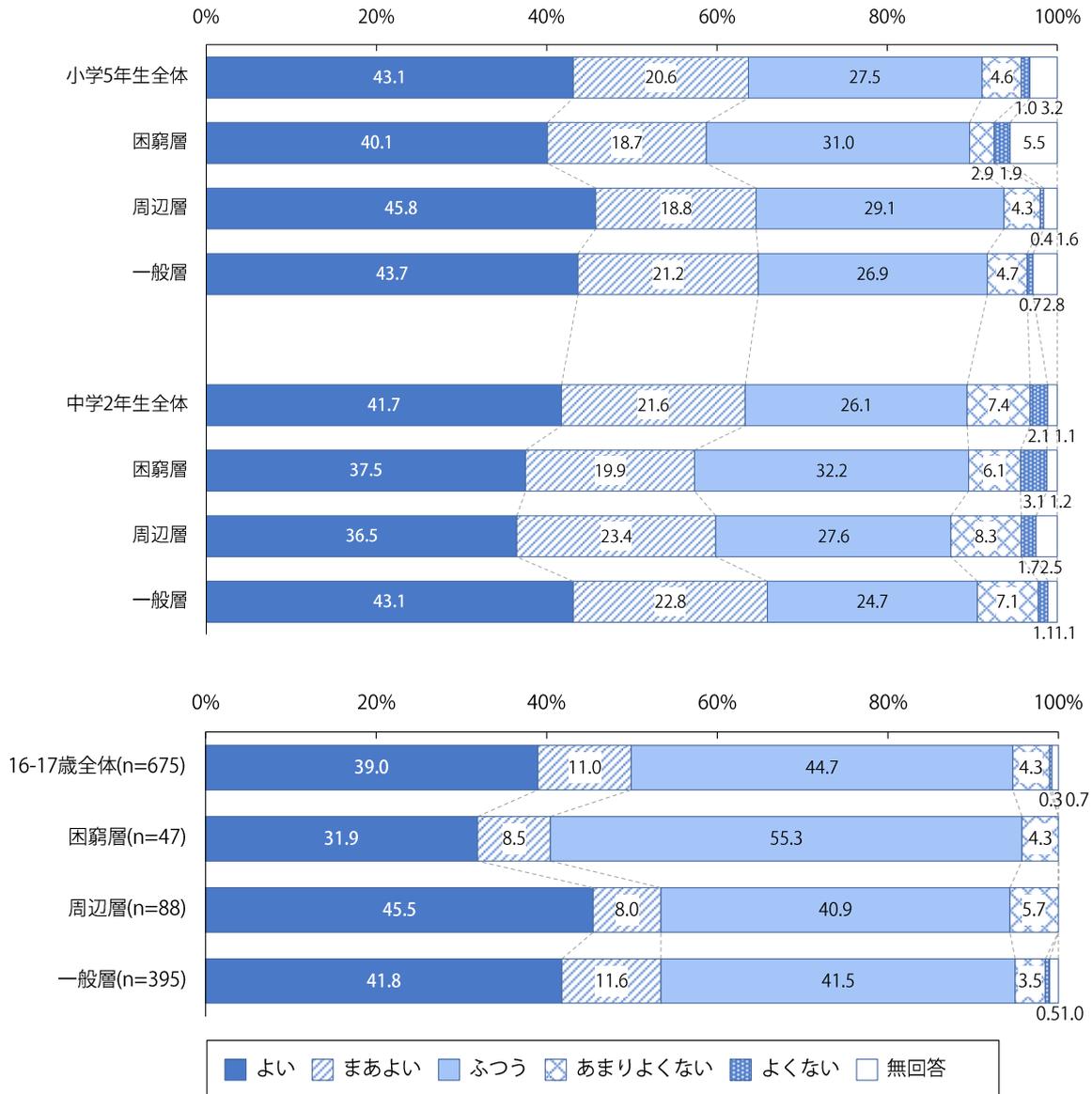


(5) 子どもの健康状態

【子ども票】

子どもの健康状態について、「あまりよくない」と「よくない」を合わせた割合は、小学5年生の一般層で5.4%、周辺層で4.7%、困窮層で4.8%、中学2年生の一般層で8.2%、周辺層で10.0%、困窮層で9.2%、16-17歳の一般層で4.0%、周辺層で5.7%、困窮層で4.3%となっている。

【小5・中2】問21 【16-17歳】問25 健康状態

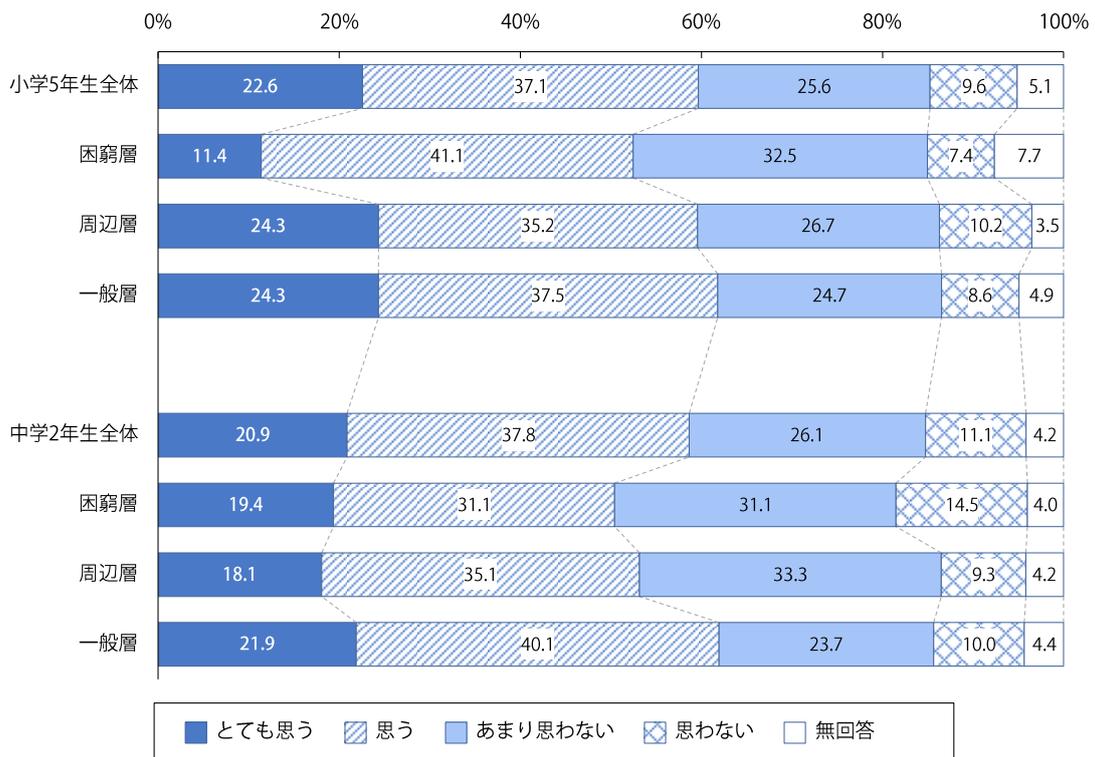


(6) 子どもの自己肯定感/自分の価値の評価

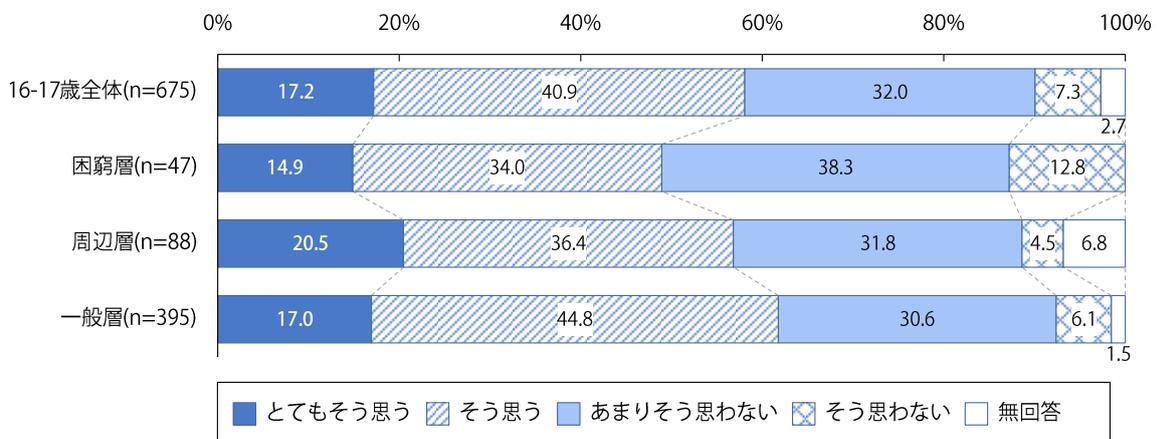
【子ども票】

子どもの自己肯定感の一つとして自分は価値のある人間だと思うかどうかを訊ねた設問で、「あまり思わない」と「思わない」を合わせた割合は、小学5年生の一般層で33.3%、周辺層で36.9%、困窮層で39.9%、中学2年生の一般層で33.7%、周辺層で42.6%、困窮層で45.6%、16-17歳の一般層で36.7%、周辺層で36.3%、困窮層で51.1%となっている。16-17歳の周辺層を除いて生活困難度との相関がみられ、いずれの年齢層でも困窮層で自分に価値を見出せていない傾向がある。

【小5・中2】問31 思いや気持ちについて/B自分は価値のある人間だと思う



【16-17歳】問38 意見について/B自分は価値のある人間だと思う



3 支援の可能性

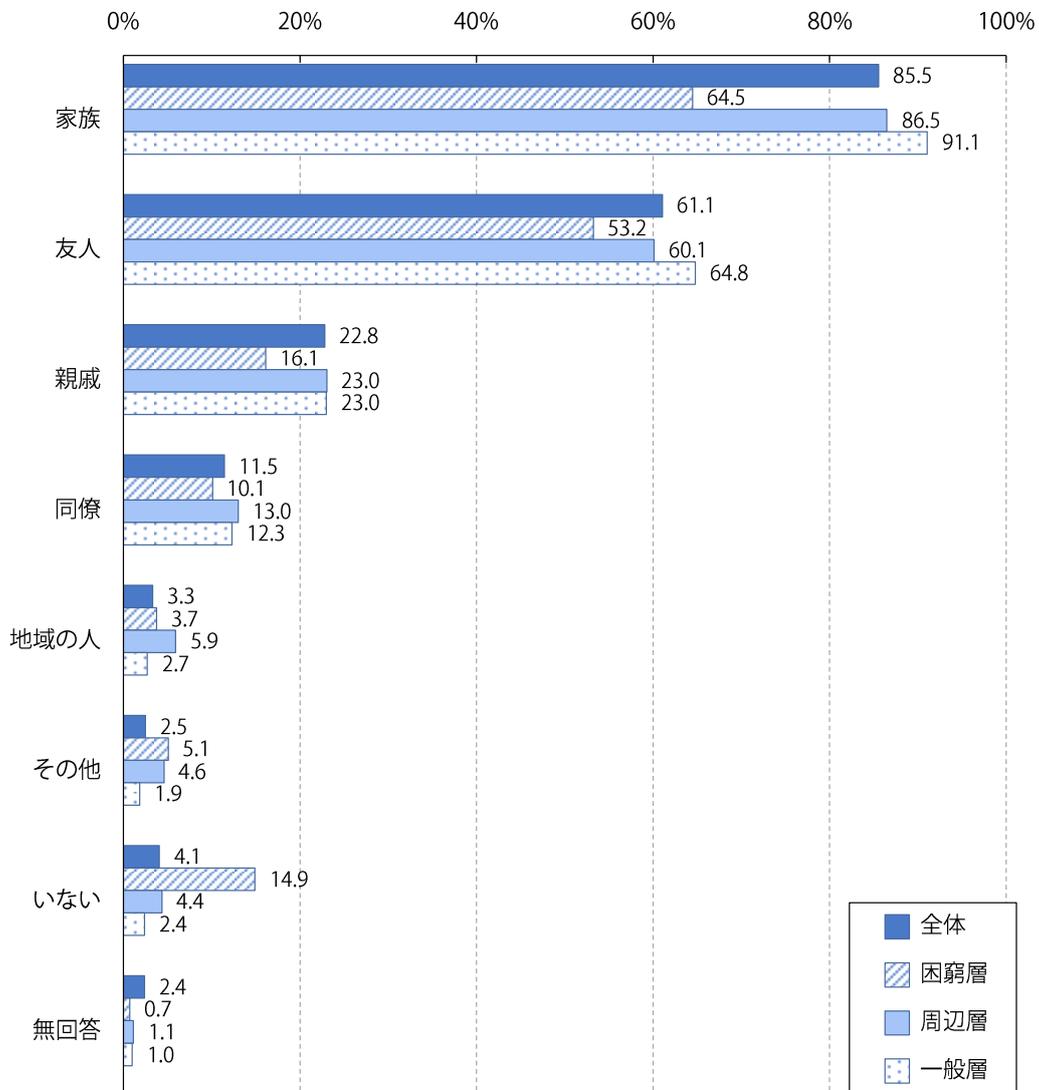
(1) 保護者の相談相手

【保護者票】

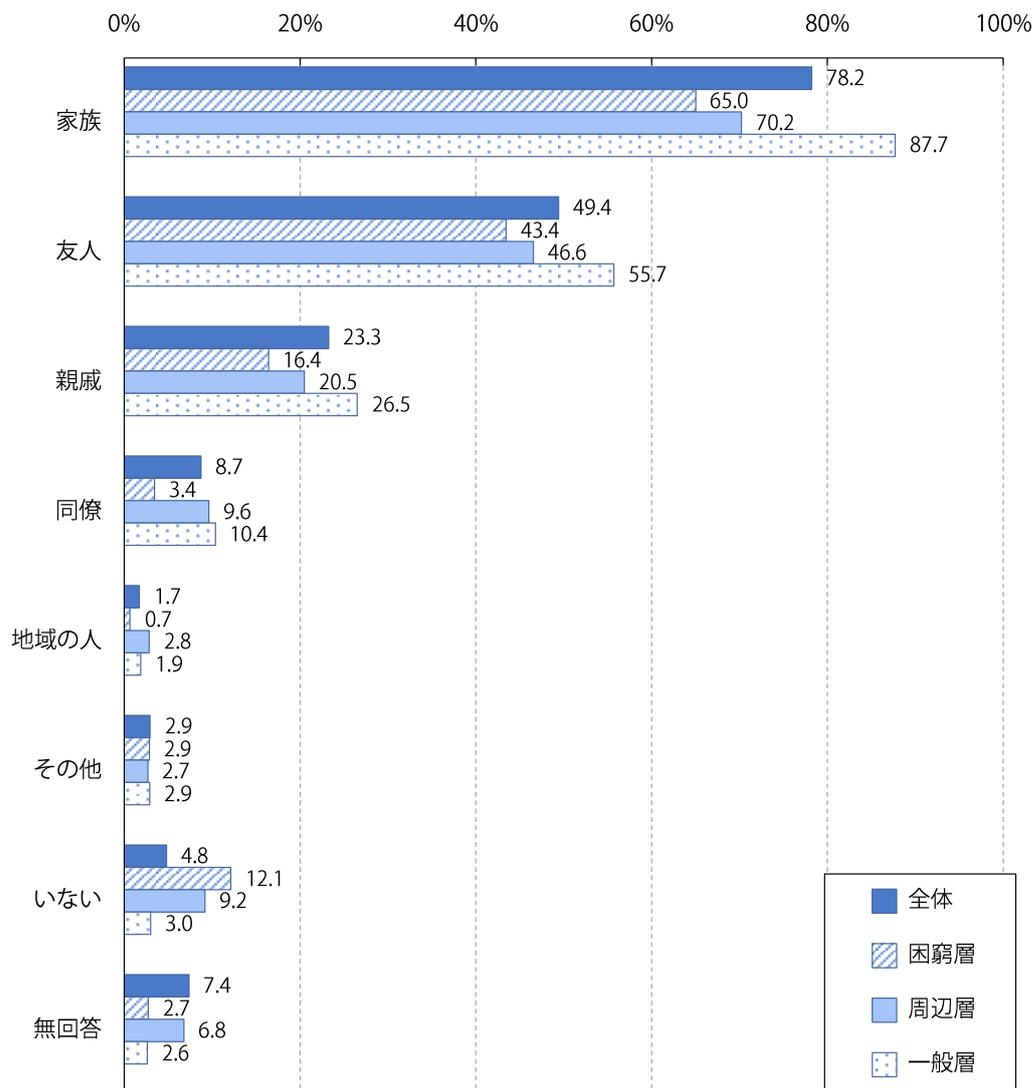
保護者の相談相手についてはどの年齢層の保護者でも「家族」「友人」「親戚」が上位3位を占めている。「いない」と回答した割合は、小学5年生の一般層で2.4%、周辺層で4.4%、困窮層で14.9%、中学2年生の一般層で3.0%、周辺層で9.2%、困窮層で12.1%、16-17歳の一般層で4.5%、周辺層で11.0%、困窮層で14.9%となっており、生活困難度が高いほど相談相手がないという傾向があらわれている。

【小5・中2】問44 【16-17歳】問45 困ったときや悩みがあるときの相談相手

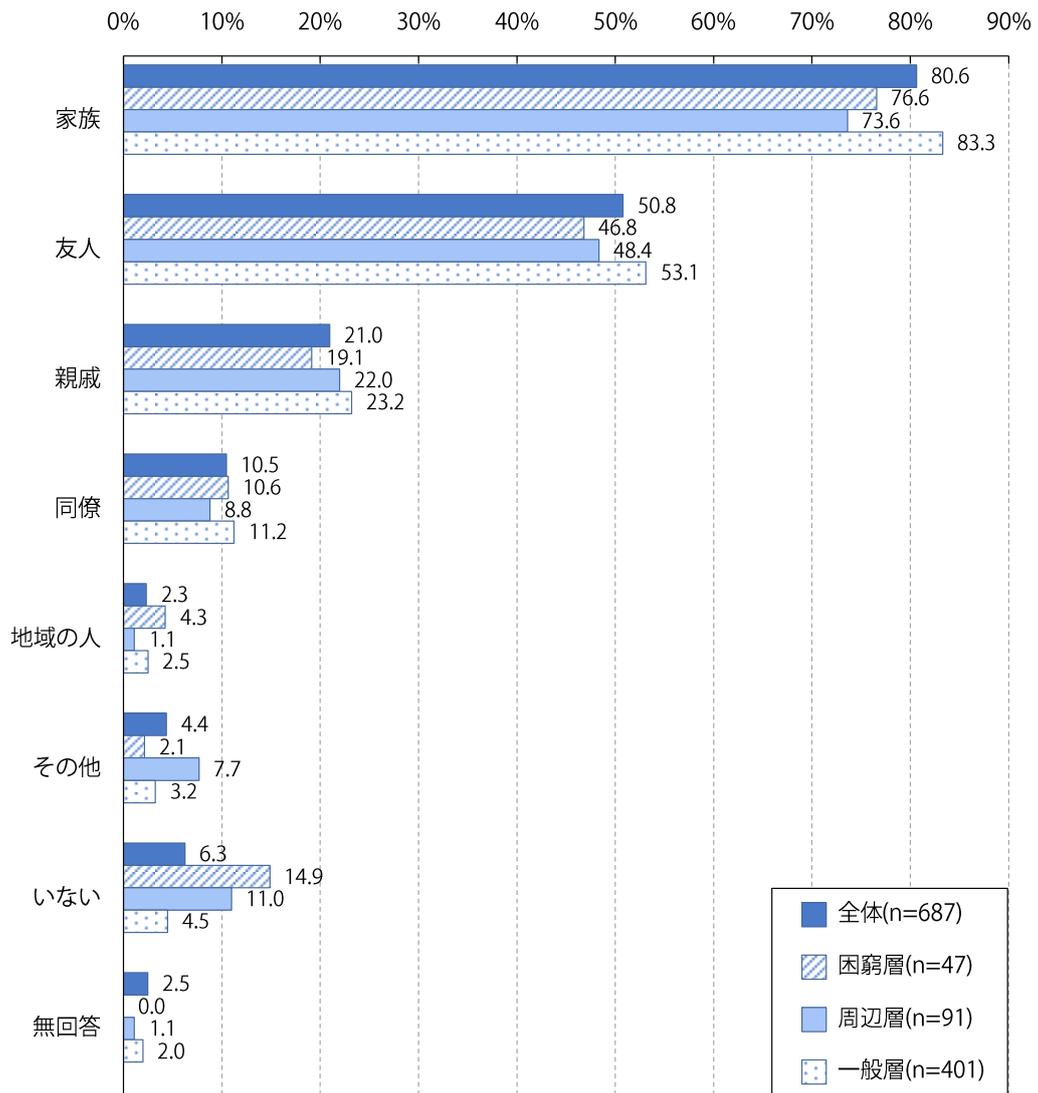
小学生保護者



中学生保護者



16-17 歳保護者



(2) 子どものサービス利用意向/家で勉強できないとき、静かに勉強ができる場所

【子ども票】

家で勉強できないとき、静かに勉強ができる場所を使いたいと思うかどうかについて、「使ってみたい」と積極的な意向を回答した割合は、小学5年生の一般層で35.4%、周辺層で32.9%、困窮層で33.9%、中学2年生の一般層で44.8%、周辺層で47.3%、困窮層で41.6%、16-17歳の一般層で46.3%、周辺層で42.0%、困窮層で51.1%となっている。積極的な利用意向において生活困難度との明確な相関はみられないが、「興味がある」の回答をみると小学5年生、中学2年生とも生活困難度が高くなるほど利用の興味があがっていることがわかる。

【小5・中2】問33 【16-17歳】問42

利用希望/D家で勉強できないとき、静かに勉強ができる場所

